

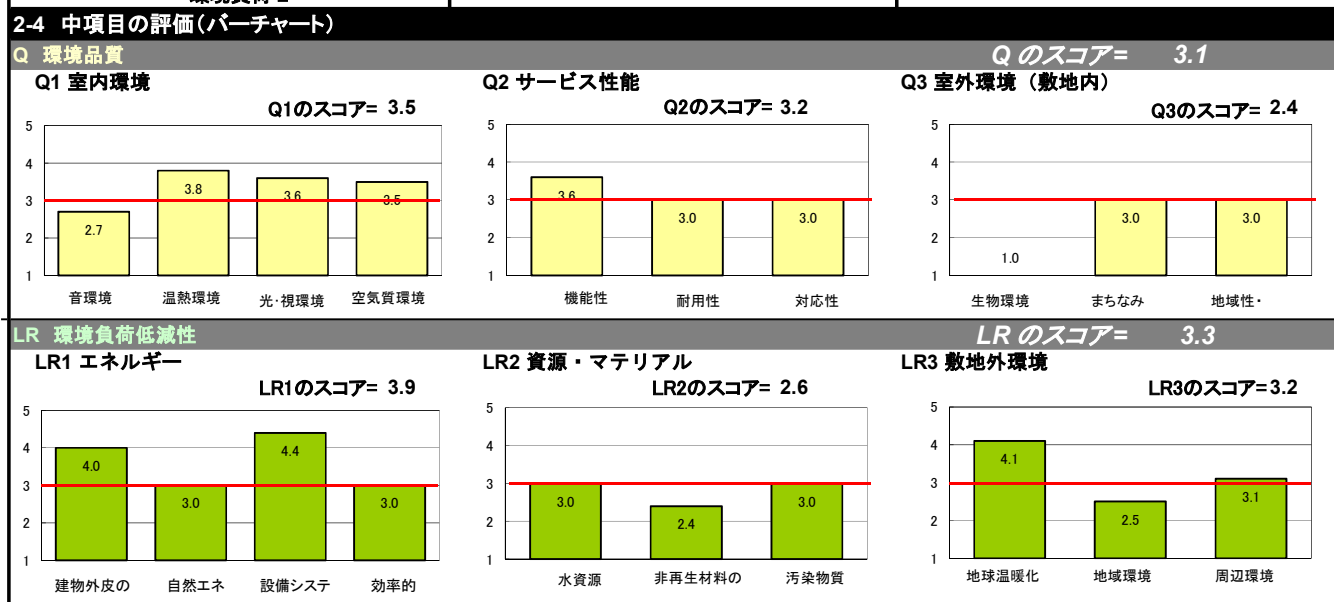
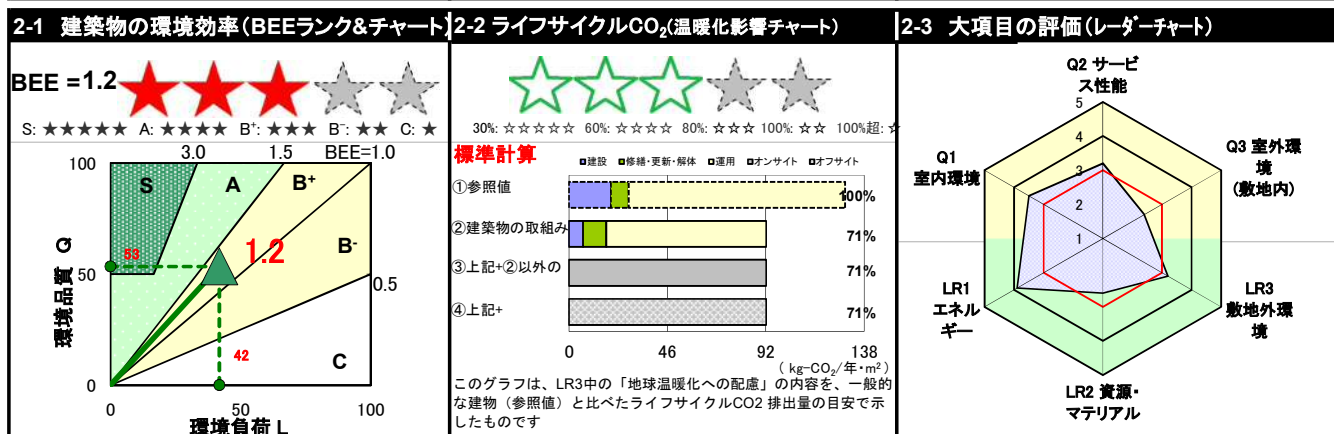
川崎市建築物環境配慮制度受付番号 17006

建築物名称	Brillia向ヶ丘遊園
建築主	東京建物株式会社 住宅事業部長 浅沼 正樹 三信住建株式会社 代表取締役社長 信田博幸 株式会社ワールドレジデンシャル 代表取締役 湯川 均
建築物の所在地	川崎市多摩区柘形6丁目4278番1他
設計者氏名、建築士事務所名	中村慎作 大末建設(株) 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	6,660.32m ²
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上5階
工事完了年月	平成30年12月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用、燃料系潜熱回収瞬間式給湯器
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	燃料系潜熱回収瞬間式給湯器

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	Brillia向ヶ丘遊園	階数	地上5F
建設地	川崎市多摩区桁形六丁目4278番1他	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、第一種中高層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	287人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年12月 竣工	評価の実施日	2017年5月16日
敷地面積	2,994 m ²	作成者	大末建設 中村慎作
建築面積	1,722 m ²	確認日	2017年5月16日
延床面積	6,660 m ²	確認者	東京建物・三信住建

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目数 最高点のスコア 合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.7
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	緑地を豊富に設け、緑化指針を満足している。 緑地を設け良好な景観を形成している。 空地率を40%以上確保し、屋上緑化も採用している。	2.0/4.3	2.3
2 まちなみ・景観への配慮			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	屋上緑化を採用している。	0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	3.0
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能	住宅性能表示基準における断熱等性能等級4を満足している。 カーテンと庇で屋光を制御している。	5.6/7.1	3.9
3 3.1 3.1.3 屋光利用設備			
3.2 3.2.1 屋光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	緑地を豊富に設け、緑化指針を満足している。 空地率を40%以上確保し、屋上緑化も採用している。	0.8/2.3	1.7
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	住宅性能表示基準における断熱等性能等級4を満足している。 潜熱回収型給湯器を採用している。	3.9/5.0	3.9
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護		2.5/4.7	2.6
2 非再生性資源の使用量削減			
3 3.2 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	屋上緑化を採用している。	0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.0
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	耐用年数の長い配管材料を採用している。	0.3/0.5	3.3
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護		2.0/4.0	2.6
2 非再生性資源の使用量削減			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	雨水貯留槽を設け、雨水流出を抑制している。	0.3/0.4	3.3
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.9
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	緑地を豊富に設け、緑化指針を満足している。 空地率を40%以上確保し、屋上緑化も採用している。	0.8/2.3	1.7
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	住宅性能表示基準における断熱等性能等級4を満足している。 潜熱回収型給湯器を採用している。	3.9/5.0	3.9
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	屋上緑化を採用している。	0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.9**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	住宅性能表示基準における劣化等級3を満足している。	0.1/0.1	5.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.7/1.2	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	住宅性能表示基準における断熱等性能等級4を満足している。 潜熱回収型給湯器を採用している。	3.9/5.0	3.9
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

CASBEE-川崎2017年版						欄に数値またはコメントを記入				17006
Brillia向ヶ丘遊園										
スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
	G	W	R	H		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										3.1
Q1 室内環境							0.40		-	3.5
1 音環境						2.0	0.15	2.9	1.00	2.7
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音						1.0	0.50	2.8	0.50	
1 開口部遮音性能						1.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能						-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	2.0	0.20	
1.3 吸音						-	-	-	-	
2 温熱環境						2.6	0.35	4.0	1.00	3.8
2.1 室温制御						2.2	0.50	4.0	1.00	
1 室温						3.0	0.63	-	-	
2 外皮性能			W		<住居部分>性能のよい断熱材により等級4を満足	1.0	0.38	4.0	1.00	
3 ゾーン別制御性						-	-	-	-	
2.2 湿度制御						3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式						3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境						3.5	0.25	3.7	1.00	3.6
3.1 屋光利用						4.2	0.30	3.4	0.50	
1 屋光率					<共用部分><住居部分>開口部を大きく確保し、屋光率を向上	5.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口						-	-	1.0	0.30	
3 屋光利用設備			W			3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策						2.0	0.30	4.0	0.50	
1 屋光制御			W		<住居部分>カーテンと庇により屋光を制御	2.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度						3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御					<共用部分>エリアごとに調光スイッチにより点滅区分を制御	5.0	0.25	-	-	
4 空気質環境						3.2	0.25	3.6	1.00	3.5
4.1 発生源対策						4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質					<共用部分><住居部分>全面的にF☆☆☆☆の建材を採用	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気						2.0	0.40	3.0	0.38	
1 換気量						3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能						-	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						1.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理						-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視						-	-	-	-	
2 喫煙の制御						-	-	-	-	

Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.2
1 機能性				2.4	0.40	3.8	1.00	3.6
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	5.0	0.60	
1	広さ・収納性			-	-	-	-	
2	高度情報通信設備対応			<住居部分>Gbitクラスのブロードバンドに対応	-	5.0	1.00	
3	バリアフリー計画			3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性				1.0	0.30	2.0	0.40	
1	広さ感・景観			-	-	3.0	0.50	
2	リフレッシュスペース			-	-	-	-	
3	内装計画			1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-	
1	維持管理に配慮した設計			3.0	0.50	-	-	
2	維持管理用機能の確保			3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.0	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80	-	-	
2	免震・制震・制振性能			3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.3	0.30	-	-	
1	躯体材料の耐用年数	R		劣化等級3を満足	5.0	0.20	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	R		2.0	0.20	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	R		2.0	0.10	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	R		3.0	0.10	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	R		寿命の長い配管材料を採用	5.0	0.20	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	R		2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性				2.8	0.20	-	-	
1	空調・換気設備			3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備			1.0	0.20	-	-	
3	電気設備			3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法			耐震クラスはAクラスを採用	4.0	0.20	-	
5	通信・情報設備			3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性				3.0	0.30	3.1	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり				-	-	3.2	0.50	
1	階高のゆとり			<住居部分>階高は2.91m	-	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ			-	-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				3.0	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出				G	W	H		1.0
2 まちなみ・景観への配慮				G				3.0
3 地域性・アメニティへの配慮								3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上								3.0
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W	H		3.0

LR 建築物の環境負荷低減性									3.3
LR1 エネルギー									3.9
1 建物外皮の熱負荷抑制	W		H	住戸:等級4	4.0	0.20			4.0
2 自然エネルギー利用	W		H		3.0	0.10			3.0
3 設備システムの高効率化	W		H	[BEI][BEIm] = 0.88	4.4	0.50			4.4
4 効率的運用					3.0	0.20			3.0
集合住宅以外の評価									
4.1 モニタリング	W		H						
4.2 運用管理体制	W		H						
集合住宅の評価									
4.1 モニタリング	W		H		3.0	1.00			
4.2 運用管理体制	W		H		3.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル									2.6
1 水資源保護	W		R		3.0	0.20			3.0
1.1 節水					3.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	1.00			
2 雑排水等利用システム導入の有無					-	-			
2 非再生性資源の使用量削減					2.4	0.60			2.4
2.1 材料使用量の削減	W		R		2.0	0.10			
2.2 既存建築躯体等の継続使用	W		R		3.0	0.20			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	W		R		3.0	0.20			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	W		R		1.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材	W		R		2.0	0.10			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	W		R		3.0	0.20			
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	0.20			3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.30			
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.70			
1 消火剤	W				-	-			
2 発泡剤(断熱材等)	W				3.0	0.50			
3 冷媒	W				3.0	0.50			
LR3 敷地外環境									3.2
1 地球温暖化への配慮	W			省エネ性能の高い設備機器を使用	4.1	0.33			4.1
2 地域環境への配慮					2.5	0.33			2.5
2.1 大気汚染防止					1.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善	G	W	H		3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.0	0.25			
1 雨水排水負荷低減			R		3.0	0.25			
2 汚水処理負荷抑制			R		3.0	0.25			
3 交通負荷抑制			R		3.0	0.25			
4 廃棄物処理負荷抑制			R		3.0	0.25			
3 周辺環境への配慮					3.1	0.33			3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40			
1 騒音					3.0	1.00			
2 振動					-	-			
3 悪臭					-	-			
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					3.0	0.40			
1 風害の抑制					3.0	0.70			
2 砂塵の抑制									
3 日照障害の抑制					3.0	0.30			
3.3 光害の抑制					3.7	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				広告物照明はなく、外構照明も適切な照明範囲にて計画	4.0	0.70			
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30			

17006

Brillia向ヶ丘遊園

このマンションは分譲住宅環境性能表示の届出を行っています。

建築主は分譲共同住宅環境性能表示を販売広告に掲載した日から15日以内に届け出る
ことになっており、これにより公表しています。



この表示は川崎市の定めた基準に従って、建築主が自らの計画を評価した内容に
基づいています。